

音 楽（器楽合奏）
-----------

## 1 調査の対象となる教科書の発行者及び教科書名

発行者の番号及び略称	教科書名
17 教 出	中学器楽 音楽のおくりもの
27 教 芸	中学生の器楽

## 2 教科書の調査研究における観点、視点及び調査方法

観点	視点	方法
(ア) 基礎・基本の定着	① 題材の目標の示し方	目標等の示し方, 目標の示し方の例, 目標に関わるポイントの例
	② 器楽の基礎・基本の定着を図るための工夫	和楽器の取扱い方
(イ) 主体的に学習に取り組む工夫	③ 興味・関心を高めるための工夫	合奏のための教材, 曲数, 巻頭・巻末の内容
	④ 和楽器の学習の扱いとその活用を図る学習活動の工夫	箏の学習展開の工夫
(ウ) 内容の構成・配列・分量	⑤ 教材の分量及び配列	楽器別カテゴリー別教材数, 合奏・アンサンブルのカテゴリー別教材数, 内容の構成
(エ) 内容の表現・表記	⑥ 本文記述との適切な関連付けがなされたイラスト等の活用	写真の内容, イラスト等の活用
(オ) 言語活動の充実	⑦ 思いや意図を相互に伝え合う活動の工夫	表現の工夫を伝え合う活動につながる記述と具体例

<b>観点</b>	<b>（ア）基礎・基本の定着</b>
<b>視点</b>	①題材の目標の示し方
<b>方法</b>	目標等の示し方，目標の示し方の例，目標に関わるポイントの例

	目標等の示し方	目標の示し方の例	目標に関わるポイントの例
<b>教出</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 目次で大まかな2つの目標を示している。</li> <li>・楽曲ごとに学習のポイントを示している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「演奏の仕方を身につけよう」</li> <li>○ 「合わせて演奏しよう」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「ギター」の例</li> <li>・カリンカ「速度の変化を生かして，表現を工夫しよう。」</li> <li>・エチュード「アル・アレイ奏法を用いてアルペッジョを弾いてみよう。」</li> <li>・マルセリーノの歌「それぞれのパートの役割を生かして，表現を工夫しよう。」</li> <li>・ラ・クンパルシータ「全体の響きを感じ取り，曲想を生かして演奏しよう。」</li> </ul>
<b>教芸</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「Let's play instruments!」の各楽器のページの冒頭に学習目標を示している。</li> <li>・「Let's play instruments!」の各楽器のページの学習目標の下に学習活動を示している。</li> <li>○ 「アンサンブルセミナー」の中で学習目標を提示している。</li> <li>・「アンサンブルセミナー」の該当ページにおいて，教材曲の下に学習活動を示している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「ギター」の例</li> <li>・「ギターを演奏しよう。」</li> <li>○ 「アンサンブルセミナー」の例</li> <li>・「曲想を感じ取って，表現の仕方を工夫しよう。」</li> <li>・「パートの役割を感じ取りながら，豊かな響きになるように工夫して演奏しよう。」</li> <li>・「曲の構成を感じ取り，リズム伴奏を工夫して演奏しよう。」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「Let's play instruments!」の例</li> <li>・「楽器の特徴を知り，その楽器にふさわしい音色奏法を工夫して表現を工夫しましょう。」</li> <li>○ 「アンサンブルセミナー」の例</li> <li>・「旋律の感じを捉え，アーティキュレーションを工夫してリコーダーで演奏しましょう。」</li> <li>・「パートの役割と全体の響きとの関わりを捉えて，全体のバランスに気をつけながら演奏しましょう。」</li> <li>・「打楽器の入ったCDの演奏を聴いて，曲の構成を感じ取りましょう。」</li> <li>・「リズムパターンの組み合わせや音色を工夫しながら，リズム伴奏をつくって演奏しましょう。」</li> </ul>

【音楽（器楽合奏）】

<b>観点</b>	<b>(ア) 基礎・基本の定着</b>
<b>視点</b>	②器楽の基礎・基本の定着を図るための工夫
<b>方法</b>	和楽器の取扱い方

<b>和楽器の取扱い方</b>		
<b>教 出</b>	配列等	○ それぞれの楽器を単独で、箏（10ページ）→三味線（8ページ）→篠笛（4ページ）→太鼓（8ページ）→尺八（2ページ）の順に示している。
	内容	○ 各楽器の各部の名称，姿勢とかまえ方，奏法等を写真や図で示している。
	楽譜	○ 縦譜を3曲（「さくらさくら」「荒城の月」「もののけ姫」），参考楽譜の縦譜を2曲（「さくらさくら」「こきりこ節」）掲載している。
	楽器ごとの楽曲	○ 箏「荒城の月」箏1，箏2による「さくらさくら」「もののけ姫」 ○ 三味線「さくらさくら」 ○ 篠笛「たこたこあがれ」「ひらいたひらいた」「さくらさくら」「子守歌」 ○ 太鼓1，太鼓2，締太鼓による「千の海響 望の章」 ○ 尺八「もういいかい」
	合奏曲	○ 三味線，打楽器による「長唄『勸進帳』から寄せの合方」 ○ 箏1，箏2による「荒城の月」「さくらさくら」「こきりこ節」 ○ 篠笛1，篠笛2，篠笛3による「一番星みつけた/夜空を見上げて」 ○ 三味線1，三味線2による「かんつばき」 ○ ソプラニーノ，アルト・リコーダー，ソプラノ・リコーダー（またはテノール・リコーダー），三味線，箏，締太鼓，大太鼓による「からくり絵巻」
	その他	○ 「名曲旋律集」に箏の演奏曲を2曲掲載している。 ○ 楽器の鑑賞曲を紹介している。（箏1曲，三味線2曲）
<b>教 芸</b>	配列等	○ それぞれの楽器を単独で，箏（8ページ）→三味線（6ページ）→太鼓（4ページ）→篠笛（2ページ）→尺八（2ページ）の順に示している。
	内容	○ 各楽器の構造や種類，姿勢と構え方，奏法等を写真や図で示すと共に，「和楽器こぼれ話」「音を聴いて確かめよう」のコーナーを設けている。
	楽譜	○ 家庭式縦譜を4曲（「虫づくし」「姫松」「さくらさくら（独奏）」「さくらさくら（二重奏）」）掲載し，楽譜の読み方を説明している。
	楽器ごとの楽曲	○ 箏「虫づくし」「姫松」「さくらさくら（独奏）」 ○ 三味線「さくらさくら」 ○ 篠笛「たこたこあがれ」「ほたるこい」 ○ 尺八「夕やけこやけ」
合奏曲	○ 箏1，箏2による「さくらさくら」 ○ 太鼓1，太鼓2による「風にのって」 ○ 篠笛，締太鼓，長胴太鼓による「MATSURI」 ○ 三味線，大鼓，小鼓による「『寄せの合方』によるリズムアンサンブル」	

【音楽（器楽合奏）】

<b>観点</b>	(イ) 主体的に学習に取り組む工夫
<b>視点</b>	③興味・関心を高めるための工夫
<b>方法</b>	合奏のための教材，曲数，巻頭・巻末の内容

	合奏のための教材		巻頭・巻末の内容	
	資料名と内容	曲数	巻頭	巻末
<b>教 出</b>	○ 「合わせて演奏しよう」として、リコーダー・アンサンブル，ギター・アンサンブル，箏，篠笛，ソプラノ・リコーダーとアルト・リコーダーとその他の楽器によるアンサンブル，三味線，リコーダーと鍵盤楽器と打楽器によるアンサンブル，体を打楽器として使って演奏する曲を掲載している。	20	○ 「With My Heart 音楽はメッセージー 奏でる喜び」と題し，黒川真理（箏），安藤由香（リコーダー），石垣征山（尺八），村治佳織（ギター）の写真と言葉を掲載している。さらに，「制作現場を訪ねて」と題し，コンピュータによる音源制作とスタジオ・レコーディングの様子を写真と言葉で掲載している。	○ 「With My Heart 音楽はメッセージー 心をこめて」と題し，深海さとみ（箏），福原徹（篠笛）の写真と言葉，「リコーダーの運指表」「ギター&キーボード コード表」「いろいろな用語，記号」を掲載している。
	○ 「名曲旋律集」として，アルトまたはソプラノ・リコーダー，アルト・リコーダー，箏の楽譜を掲載している。	10		
<b>教 芸</b>	○ 「アンサンブル」として，リコーダー・アンサンブル，ギター・アンサンブル，ソプラノ・リコーダーとアルト・リコーダーとその他の楽器によるアンサンブル，打楽器によるアンサンブルを掲載している。	19	○ 「楽器と出会うー奏者から皆さんへ」と題し，遠藤千晶（箏），大萩康司（ギター），川端りさ（リコーダー），藤原道山（尺八）の写真と言葉を掲載している。さらに「リコーダー，ギターが活躍する曲」，「いろいろな長さの笛」を掲載している。	○ 資料として，「リコーダーの運指表」「ギターのコード ダイアグラム一覧」「音楽の約束（音符・休符・記号・用語）」「日本の伝統音楽の楽器編成」を掲載している。
	○ 「名曲スケッチ」として，アルト・リコーダーの楽譜と，それぞれの曲の説明を掲載している。	9		

観点	(イ) 主体的に学習に取り組む工夫
視点	④和楽器の学習の扱いとその活用を図る学習活動の工夫
方法	箏の学習展開の工夫

箏の学習展開の工夫		
教出	題材名	○ 演奏の仕方を身につけよう ー箏（こと）ー
	学習の流れ	○ 各部の名称→柱の立て方→爪→調弦法→姿勢とかまえ方→親指による基本的な奏法（角爪・丸爪）→練習曲（「さくらさくら」等）→奏法（押し手）→練習曲（「荒城の月」）→音のスケッチ（平調子による前奏の創作）→練習曲（「もののけ姫」, 奏法：ピッツィカート・合わせ爪・スクイ爪）
	基本的な奏法（親指）	○ 演奏者を正面に見た角度と演奏者側から見た角度の写真を載せ、1ページに2段階に分けて説明している。
	基礎的な奏法の活用を図る学習活動	○ 「音のスケッチ」として、平調子の響きを生かして「荒城の月」の前奏を創作する活動を設定している。 ・活動1「『荒城の月』の歌詞の内容や、感じ取った曲想に合った表現をイメージして、2小節の前奏をつくろう。できあがったら、弦名を記録しておこう。」 ・活動2「前奏を1回繰り返して演奏し、それに続けて『荒城の月』を弾きながら歌ってみよう。」 ・活動3「表現したかったイメージをまとめ、発表しよう。」 ○ 吹き出しにより、学習した基礎的な奏法の活用を促している。 ・吹き出しの言葉→「前奏に押し手を取り入れてもいいよ。」
	楽譜	○ 縦譜と五線譜（音符の下に漢数字での弦名）の2種類を示している。
	資料	○ 「弾いてみよう」, 鑑賞曲1曲 ○ 箏と琴についての説明と、調弦を民謡調子に変えて演奏できる「こきりこ節」の楽譜を掲載している。
	ページ数	○ 10ページ
教芸	題材名	○ 箏を演奏しよう
	学習の流れ	○ 構造→柱の立て方→爪→調弦→姿勢と構え方→基本的な奏法（親指・中指）→練習曲（「虫づくし」, 「姫松」, 「さくらさくら」, 押し手の奏法を掲載）→いろいろな奏法（合せ爪・スクイ爪・流し爪・ピッツィカート・トレモロ）→「My Melody」（平調子による旋律の創作）
	基本的な奏法（親指・中指）	○ 演奏者側から見た角度の写真を載せ、親指と中指を使った奏法について説明している。
	基礎的な奏法の活用を図る学習活動	○ 「My Melody」として、箏を平調子に調弦して旋律をつくる活動を設定している。 ・この続きの旋律を考えて、糸の名称を枠内に書き込みましょう。 ・「Challenge!!」→「さくらさくら」の前奏をつくってみましょう。 手順①：どのような桜をイメージしてつくるかを考える。 （例 満開の桜, まだつぼみの状態の桜, 桜と川のせせらぎなど） 手順②：イメージに合った奏法を選ぶ。 （例 満開の桜→華やかなイメージ→どの奏法が合うか? など） ・音の流れを図形で表したり、使う奏法をメモしたりしておこう。 ・左ページの「いろいろな奏法」を参考にしよう。
	楽譜	○ 家庭式縦譜と五線譜（音符の下に漢数字での弦名）の2種類を示している。
	資料	○ 「楽器を知ろう」, 鑑賞教材3曲, 「和楽器こぼれ話」, 「姿勢と礼儀」, 「音を聴いてたしかめよう：糸の響き・余韻の変化」, 「弾き歌い」, 「唱歌」を示している。
	ページ数	○ 8ページ

【音楽（器楽合奏）】

観点	(ウ) 内容の構成・配列・分量
視点	⑤教材の分量及び配列
方法	楽器別カテゴリー別教材数，合奏・アンサンブルのカテゴリー別教材数，内容の構成

		楽器別							合奏・アンサンブル	内容の構成
		アルト・リコーダー	ギター	箏	三味線	太鼓	篠笛	尺八		
教出	クラシック音楽	11							6	① アルト・リコーダー
	日本歌曲	2		3					3	② ギター
	日本古来の曲			1	2		2		1	③ 箏
	わらべうた						2	1		④ 三味線
	日本の民謡								1	⑤ 篠笛
	世界の民謡	2	2							⑥ 太鼓
	映画・ポピュラー音楽等	6	3	1					3	⑦ 尺八
その他・オリジナル等	4	1	2		1			7	⑧ リコーダーによる合奏 ⑨ いろいろな合奏 ⑩ 名曲旋律集	
教芸	クラシック音楽	11							2	① アルト・リコーダー
	日本歌曲	2								② ギター
	日本古来の曲			2	1				1	③ 箏
	わらべうた						2	1		④ 三味線
	日本の民謡									⑤ 太鼓
	世界の民謡	5	1						1	⑥ 篠笛
	映画・ポピュラー音楽等	2	2						10	⑦ 尺八
その他・オリジナル等	4		1					7	⑧ 打楽器 ⑨ アンサンブルセミナー ⑩ アンサンブル ⑪ 名曲スケッチ	

【音楽（器楽合奏）】

<b>観点</b>	<b>(エ) 内容の表現・表記</b>
<b>視点</b>	⑥本文記述との適切な関連付けがなされたイラスト等の活用
<b>方法</b>	写真の内容，イラスト等の活用

	写真の内容	イラスト等の活用
<b>教 出</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ プロの演奏家が演奏している写真                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 巻頭に箏・リコーダー・尺八・ギター，巻末に箏・篠笛を演奏家のメッセージと共に掲載している。</li> <li>・ 各楽器（リコーダー・ギター・箏・三味線・篠笛・太鼓・尺八）の見出しと共に演奏場면을掲載している。</li> <li>・ 太鼓については種類や演奏形態の異なる演奏場面を比較できるように掲載している。</li> </ul> </li> <li>○ 楽器や構え方，奏法に関する写真                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ リコーダー，ギター，箏，三味線，篠笛，長胴太鼓，締太鼓，桶胴太鼓，尺八について掲載している。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ マーク                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 鑑賞教材を表すマークを目次及び該当ページの教材曲の横に掲載している。</li> </ul> </li> <li>○ キャラクター                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 一般教科書に出てくる男の子と女の子のキャラクターが，巻頭資料，リコーダー，箏のページに登場する。</li> </ul> </li> <li>○ 色分け                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 目次で，楽器や項目ごとに見出しの色を統一し，中味と対応させている。</li> </ul> </li> </ul>
<b>教 芸</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ プロの演奏家が演奏している写真                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 巻頭に箏・ギター・リコーダー・尺八を演奏家のメッセージとともに掲載している。</li> <li>・ 各楽器（リコーダー・ギター・箏・三味線・太鼓・篠笛・尺八）の見出しと共に演奏場면을掲載している。</li> <li>・ ギター，三味線，太鼓については，様々な演奏形態が比較できるように掲載している。</li> </ul> </li> <li>○ 楽器や構え方，奏法に関する写真                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ リコーダー，ギター，箏，三味線，長胴太鼓，締太鼓，篠笛，尺八，クラベス，シェーカー，カウベル，アゴゴ，ボンゴ，コンガ，カスタネット，タンブリン，鈴，シンバル，小太鼓，大太鼓について掲載している。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ キャラクター                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 一般教科書に出てくる男性と女性のキャラクターが，音楽学習MAP，箏，アンサンブルセミナー，アンサンブルのページに登場する。</li> </ul> </li> <li>○ 色分け                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 目次で，楽器や項目ごとに見出しの色を統一し，中味と対応させている。</li> </ul> </li> </ul>

【音楽（器楽合奏）】

観点	(オ) 言語活動の充実
視点	⑦ 思いや意図を相互に伝え合う活動の工夫
方法	表現の工夫を伝え合う活動につながる記述と具体例

	表現の工夫を伝え合う活動 につながる記述	具体例
教 出	○ 器楽の活動において、奏する際の工夫する視点を記述している。	○ 教科書全般における具体例 <ul style="list-style-type: none"> <li>・「自分が興味をもったほうの作品について、みんなに紹介する文章を書いてみよう。」(p. 18)</li> <li>・「曲全体を通して聴いて、自分がいちばんおもしろいと感じた部分を、みんなに紹介する文章を書いてみよう。」(p. 34)</li> <li>・「表現したかったイメージをまとめ、発表しよう。」(p. 37)</li> </ul>
教 芸	○ 「アンサンブルセミナー」(器楽・創作)において、グループアンサンブルの中で工夫する視点を挙げると共に、具体的な学習活動を、手順に沿って示している。	○ 「アンサンブルセミナー」の教材『テキーラ』における具体例 <ul style="list-style-type: none"> <li>・Step 1 『テキーラ』は次の3つの部分の組み合わせで構成されています。打楽器の入ったCDの演奏を聴いて、それぞれの部分の旋律の違いを確かめながら、曲の構成を感じ取りましょう。」</li> <li>・Step 2 「グループに分かれて④・⑤・⑥それぞれの部分に3～4パートからなるリズム伴奏を考えます。下のリズムパターンを組み合わせ、曲の構成に合ったリズム伴奏をつくりましょう。」</li> <li>・Step 3 「それぞれのパートに合う楽器などを選んで、打楽器の入っていないCDの演奏にリズム伴奏を加えて演奏しましょう。」</li> </ul>